

研究倫理はなぜ大切？

新入生のみなさん、これまでに何らかの研究を経験されたことがあると思います。たとえば、小学生の頃の夏休みの自由研究や、中学・高校での課題研究などです。大学では、「学術研究」として、学生が教員の指導のもと、あるいは学生と教員が協働で研究を進めることとなります。ここでは、学術研究の大まかな流れを紹介したうえで、本コラムのタイトルにもある「研究倫理の大切さ」についてお伝えしたいと思います。

文部科学省は、学術研究を「研究者の自由な発想と研究意欲を源泉として行われる知的創造活動であり、人間の精神生活を構成する要素としてそれ自体文化的価値を有するものである」と説明しています。研究成果も当然重要ですが、それ以上に「研究活動そのもの」に大きな価値があり、それがみなさん自身の成長にもつながっていきます。

まずは、研究の基本的な流れを見てみましょう。

- ① 研究テーマに関する先行研究を調べ、具体的な研究目標を設定する
- ② 研究の計画を立てる
- ③ 研究を実施する
- ④ 結果をまとめて論文を書く
- ⑤ 論文を公表・発表する

上記のステップのうち、①は本学図書館が提供するオンラインデータベースを活用します。これから取り組もうとしている分野で、何がどこまで明らかになっているのかを調べることで、自分の研究の意義がより明確になります。既に他の研究者に十分に研究されたテーマに取り組むことは、あまり意味はありません。まだ解明されていない問題や、これまで以上の成果が期待できるテーマを見つけ、目標を設定することが大切です。

本学図書館ウェブサイトのオンラインサービス [電子リソースポータル](#)では、**国内外の約6万タイトル**に及ぶ学術雑誌にアクセスでき、必要な論文情報を瞬時に入手できます。つまり日本だけでなく世界中の先端的な研究に直接触れることができます。ぜひ、世界を見据えた学びを意識して、積極的に知識を広げてください。

次に、本題である研究倫理について説明します。研究のステップ②から⑤の中でも、特に④（結果のまとめと論文執筆）と⑤（公表・発表）において研究倫理は非常に重要です。

人は誰でも、設定した目標を達成したいという強い気持ちを持っています。しかしその気持ちが、時に「心の隙」に入り込み不正行為につながってしまうことがあります。たとえば、

- ・実際には取っていないデータを作り出す（捏造）
- ・得られたデータを都合のよく書き換える（改ざん）
- ・他人のデータを自分のデータのように使う（剽窃 ひょうせつ）

などのケースがあります。こうした不正が、残念ながらしばしば発生し、報道されることもあります。

みなさんが研究を行う際に最も大切なのは、「自分が得たデータから何が言えるのかを正直に考えること」です。冒頭に記述した文部科学省の説明にあるように、知的創造活動そのものに価値があります。期待していた結果が得られなかったとしても、「なぜ得られなかったのか」を冷静に分析し、整理することに大きな意味があります。「正直に、自分の得たデータと向き合い、そのデータから導けることだけを主張する」という姿勢こそが、真の知的創造活動であり、次の研究にもつながる重要なステップです。

論文の書き方についてはここで特には触れませんが、このガイドブックの“[レポートを書くときの注意点](#)”などをぜひ参考にしてください。また、本ガイドブックには、研究倫理の基本事項も掲載されていますので、必ず目を通してください。これらは、大学生として知っておくべき重要な知識です。さらに、「[研究者倫理規範](#)」にも目を通してください。これは、学生を含む本学の研究者が守るべき倫理規範について、簡潔にまとめられたものです。

琉球大学では、「[琉球大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程](#)」等も整備し、研究倫理の向上に取り組んでいます。研究推進課のウェブサイトには、学生向けの資料も掲載されています。（「[大学で実りある学修・研究をするために](#)」など。）研究に取り組む前に、ぜひ確認しておいてください。最後に、生成AIについて触れておきます。生成AIの技術は急速に進歩しており、精度も機能も日々向上しています。一方で、これを悪用すると、研究を行わなくても既存の知識をうまくまとめて、あたかも「研究成果」のようなものを作り出すことも可能です。このような使い方が広まると、学術研究は根本から崩れてしまいます。

生成AIは研究に限らず、様々な分野での活用が期待されており、みなさんがこれを賢く使うことは自然のことです。ただし、学術研究活動や学びの場では、みなさんの知的創造活動こそが最も大切です。生成AIを「自身の思考を深めるための補助ツール」として活用し、自分の知的創造活動を高めるために使ってください。

琉球大学では、学生の皆さんが生成AIにどう向き合うべきかについてガイドラインを整備しましたので、ぜひ一度確認しておいてください。（[国立大学法人琉球大学における生成AI利用に関するガイドライン](#)）

最後に、みなさんが琉球大学で充実した大学生活を過ごされることを願って結びといたします。

琉球大学理事・副学長（研究・地域連携担当）

名嘉村盛和

